

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871300152
法人名	医療法人 慶尚会
事業所名	グループホーム テレサ
所在地	四国中央市土居町蕪崎167
自己評価作成日	平成27年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いのある生活 これを理念に利用者の方と職員が毎日一緒に喜び合い、一緒に楽しみ合い、毎日が穏やかに過ごせる生活を支援していきます。健康に過ごして頂くために、リハビリ体操も毎日、午前と午後の2回行っています。毎食の食事作りも、できる事は手伝ってもらいながら、季節の行事、お誕生日会など行事に取り入れながら、普段の食事作りも季節の食材を使い、「あー美味しかった！」の一言に励まされながら、楽しい食事作りを行っています。地域の行事に参加できるよう、地域の方から情報を頂き、参加できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体は大型の入院設備を持っている地域連携型病院である。歯科まで整えられており、高齢者を安心して任せられる病院として住民には信頼が厚い。事業所も開設12年目を迎え、利用者がほとんど地域住民であることなど、地域の身近な福祉拠点としてしっかりと定着している。利用者はみんな楽しく童謡等を元気よく歌ったり、リハビリ体操を行ったりと明るく生き生き過ごしている。また、食事は季節の食材を使い、できることは利用者にも手伝ってもらい和やかな雰囲気です。食事作りができており、利用者の楽しみな一時となっている。事業所恒例の催しとして、そうめん流しやいもたき会など家族も含めみんなで楽しめる行事等が実施され、利用者と一緒に楽しく過ごせるよう「笑顔」を基本に日々ケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64		○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム テレサ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 津島 夕香

評価完了日 平成 27 年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を 共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関の入り口に掲示しています。職員全員にいつも見えるようにしています。毎日、笑顔で過ごせるよう、接しています。 (外部評価) 理念は「利用者が自分の親だったらここでどんな暮らしをしてほしいか」という問いかけから作られたもので、文言の中に深い思いが感じられる。「笑いのある生活」にしても、安心して笑うのか、楽しくて笑うのか、それとも周りにつられて笑うのか、笑うという結果だけを見るのではなく、何故笑えるのかを考える介護を理念は示している。プロセスを大切にすることを心掛けているという管理者の言葉を納得する理念である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃、消毒活動に積極的に参加しています。その他に、利用者の方と、公民館祭に出席し、地域の方と交流できるようにしています。 (外部評価) 田畑に囲まれた事業所は、隣接している家がある訳ではなく、道路からも奥まった所に建っているため、醤油を借りに行くような付き合いも難しい立地条件である。そのため管理者は地域行事や役割を積極的に担い、催し物がある際には利用者の状態が許す範囲で出かけている。ただ、病院の地域貢献には歴史があるため、近隣者からは病院と事業所は同一施設という認識があることは否めない。	病院とは独立した事業所であることを前面に出した活動を考えてほしい。前面道路の先に大きな工場が建設中であるが、完成すると多くの従業員が朝夕に事業所の前を行き来するはずで、その時間に合わせて利用者と一緒に散歩に出て挨拶をしたり、顔馴染みになりちょっとした立ち話ができる関係が期待できる。このように利用者が主体となって地域との付き合いを深めていく視点も大切である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症について話し合ったり、テレサでの支援方法を話して理解してもらったりしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、テレサの活動状況、利用者の入所状 況や介護度、研修報告など発表しています。運営推進会 議でテレサに来た時に何か気付いたことや、直したらい いことなど意見を頂いています。 (外部評価) 運営推進会議の議事録は、フォーマットを統一して見や すく整理されている。管理者が会議を毎回丁寧に運営し ていることが窺える。ただ議事録からは会議を開催する こと自体が目的になっているように思える。運営推進会 議の目的にはサービスの質向上があり、そのサービス提 供の主役は利用者である。そのための会議であるから、 利用者主体の議題をもっと多くする事が求められる。	運営推進会議の中で、消防署職員が利用者を知る時間 を取ることを考えてほしい。有事の際は、消防職員が 利用者自身を知っていることや生活の場を見ているこ とで、避難活動がスムーズに運ぶことが期待できる。 また、会議参加者に利用者に提供している食事を試食 してもらうことも有用である。第三者からは意外な意 見が出るものであり、職員にも緊張感が生まれ、業務 の遣り甲斐になると思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 運営推進会議に市役所の方が出席して頂き、ご意見や指 導を受けています。 (外部評価) 市担当者とは運営推進会議とグループホーム連絡会での 話し合いが中心である。地域包括支援センターとも同様 で、会議等の定例会で連絡を取っている。元々事業所が ある市は4つの市町村が合併しているため、それぞれの 地域性が未だに色濃く残っている。そのため全体の会議 では細やかな連携が取り難い現状があるように感じる。 地域特性を活かした連携も模索する必要がある。	近隣地の同業者となると数が少ないが、高齢者の福祉 関連事業者と範囲を広げると興味深い集まりになると 思われる。また、地域包括支援センターの担当者を巻 き込んで、地域に福祉マップを作製する等の活動も期 待したい。事業所は開設後12年目の先輩格でもあるこ とから、地域の先導役を担ってほしい。この活動で市 ともより具体的な連携が構築されると思われる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は施錠していません。身体拘束もないケアができて います。 (外部評価) 身体拘束の対象となる具体的な行為は、研修会に参加し たり、事業所内のミーティングで時間を取ったりして正 しく理解している。特に言葉による拘束には気を配って おり、職員は、まずは話を聞くことを心掛けている。 ただ先日不穏な状態が続いた利用者が近隣を徘徊した ことがあり、それ以降、家族からの強い要望があり玄関 鍵を掛けている。現在はその対応に苦慮している。	利用者の徘徊で事故に会わなかったことは幸いであ る。家族の要望で鍵を掛けている状態は、しばらくは 仕方がないかもしれないが、施錠は拘束にあたりその 事は管理者も十分に承知している。利用者の不穏な要 因を軽減する、職員による見守り体制を見直す、家族 等と話し合いを深める等を継続し、施錠しなくても良 い状態へ、1日も早く復帰できる事が望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止には、職員全員で努めています。些細な傷やあざなど発見した場合、記録し、職員間で話し合い常に意識して介護を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用する方がいない為、知識はありません。これから学ぶ機会を持ち、理解し、支援出来るよう努めたいです。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用者家族の方と、契約書を読み、説明し理解して頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入所時前には、家族の方が心配していることや、家ではどんな生活をしていたかなど話を聞くようにしています。面会時には近況報告を行っています。 (外部評価) 管理者は、「分からないことは利用者や家族等に直接聞いています」と謙虚に話している。分からないことを知ったかぶりをせずに、素直に分からないと言えることは対人サービス者には特に求められ、逆に管理者の専門性の高さが感じられる。利用者や家族等が意見を言い易い雰囲気を出せるのは、管理者の性格によるものもあるが、より良いサービスを提供したいという思いが、利用者等の話を傾聴する姿勢につながっているのだと思う。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員が働きやすくなるよう、カンファレンスなどで意見を聞き、反映できるようにしています。 (外部評価) 管理者は介護業務のキャリアは十数年あるが、年齢的には年上の職員が比較的多く、職員との話し合いは同じ介護スタッフとしての意見交換が多い。管理者は人の話を聞くという気持ちが強いことから、職員の意見や提案を聞いた上で、それを利用者のケアの質向上に活かしている。事業所内には、「一緒に事業所を運営している」という雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個人個人に役割分担が与えられ、責任を持って業務を行っています。働きやすい職場になるよう、職員から出た意見を代表者に伝え、解決できるようにしています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や勉強会の情報を貼り出し、職員が積極的に参加できるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 職員不足などがあり、ゆとりが持てず、相互訪問や職員の交流する機会が持てませんでした。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 声かけを多くし、不安に感じたことはないか、困っていないか、好きなことはなにか、会話の中から話をじっくり聞き、本人との信頼関係を築けるようにしています。早く慣れ、居心地のいい環境を提供できるよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、家庭での過ごし方や、困っていた事、テレサでどのように生活してもらいたいかなど、じっくり話を聞くようにしています。また、面会に来られた時にテレサでの様子を詳しくお話できるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者と家族の方が要望していることに答えられるようにしています。環境の変化や戸惑いにも早く気が付き安心して生活していけるよう支援しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の気持ちを尊重し、できる事をして頂き、お互いに支えあい、共に暮らしていけるような関係作りを心がけています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の心のケアを心がけています。また、出来ない事はさりげなく介助を行い、職員と利用者がお互い助け、助けられる関係を築けるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ずっと行っている美容室に出かけたり、スーパーへの買い物に出かけたりしています。 (外部評価) 利用者の多くは事業所の近隣に居住していた人であり、普段の外出でも馴染みの場所に出向くことができる。利用者同士の雑談の中にも昔の友人の名前が良く出てくると言う。利用者が忘れないように職員が話を振っているものと思われる。「ほんで〇〇さんはどこに住んでいたんだっけ」と、利用者の近所の人の名前を出している職員の姿は自然であり、普段通りの支援であることが実感できる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルがないように席の配置に気を配っています。利用者の方々の間に入り、楽しく会話できるように心がけています。また、利用者の方が一人孤立しないよう職員が声かけを行い、みんなでテレビ観たりして過ごしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院に入院になり、退所された方でもお見舞いに行ったりしています。そして、家族の方とお会いできれば挨拶をしたり、入院の様子をお話しています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の方がその人らしくいられるよう、本人の希望や訴えに耳を傾けるようにしています。また、一人一人が居心地のいい時間が過ごせるように努めています。 (外部評価) 利用者の個人ノートが有用に使われており、職員はその人像がより深く理解できている。事業所の積み重ねと言えよう。利用者は全員女性で、利用者の対応も女性職員とのあうんの呼吸があるのか、男性職員の話しを「ハイハイ」と聞いている利用者は、私の事はあの人（女性職員）が理解しているとも言いたそうであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の方が入所前どのような生活を行っていたのか、本人や家族の方からきいています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の方のできる事を把握して、1日無理なく過ごせるようにしています。また、朝は必ずバイタルチェックを行ったり、1日の食事量や夜間の睡眠の様子を把握するように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 問題や介助の必要について職員と話し合っています。家族の方の意見も聞いて反映しています。 (外部評価) 事業所では、利用者毎の担当者は決めず、職員全員で全部の利用者を見るという体制である。利用者全員が女性であるための体制なので、男性職員を補うためには全員で見た方が良いとの判断である。介護計画は計画作成担当者が立て、カンファレンスで検討されている。管理者が全体を統括しており、そのシステムにはキャリアが感じられる。	職員の専門性を上げるために利用者の介護計画に責任を持たせても良い時期と思われる。全員で全員を見るシステムの良さもあるが、職員の専門性を上げるには各々が責任を持つことも必要である。また、責任を持つことで、利用者をより観察し、モニタリングも自分で確認したいとなるようだ。休みの日には他の職員にモニタリングを依頼することになり、ポイントを絞った引き継ぎが期待できる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人一人にノートを作り、個別に記録しています。申し送りノートにいろいろな情報を記入し、情報を共有し介護に役立てています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 柔軟に対応出来るようにしています。一人一人に合わせて食事の提供を行ったり、お買い物支援、体調不良時の受診など行っています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問があったり、地域の保育園の行事に参加したりしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	(自己評価) 隣に病院があるため、すぐに受診ができています。入所 前のかかりつけの病院については家族の希望を聞いてい ます。また、認知症の専門の病院は引き続き受診しても らえるよう家族にお願いしています。	
			(外部評価) 母体病院が地域連携型病院のため、多くの利用者は元か ら母体病院がかかりつけ医であった。事業所と隣接し診 察科目も多いことから、かかりつけ医を母体病院に変更 する利用者もいる。他の医療機関とも連絡がスムーズ で、専門科で他院を受診している際にも、病院同士の連 絡で専門的な情報に漏れがなく、医療面では安心感が高 い事業所である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 受診時に報告しています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。または、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはテレサでの状態を報告しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しなが ら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム で支援に取り組んでいる	(自己評価) その人らしく最後まで支援できたと思います。家族の方 にも満足して頂けたように思います。これからもこのよ うな支援が出来るように心がけたいです。早め早めにこ れからどのようにしていくか、こちらでできる事を説明 し決めていく必要があると思います。	
			(外部評価) 利用者に医療的ケアが多くなると母体病院に入院するこ とが多かったが、昨年、利用者と家族の希望で事業所で 看取ることを経験している。医療的ケアが必要ないケ ースだったことと、ここで最期を迎えたいと言うたての 希望が出されたためであるが、希望にそうケアが提供で きたと思われる。条件にもよるが、今後も看取りができ るように支援を行いたいと管理者は考えており、母体病 院の協力も得られているので、期待したい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時は隣が病院のため、すぐに連絡するようにしています。だが、これからのためにも、急変時に備え、実践できるように身に付けていきたいと思います。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、避難訓練を実施しています。運営推進会議などで、地震、火災がおこった場合、協力して頂けるよう声かけしています。前回の外部評価で指導して頂いた、避難体験や夜間訓練など、まだ実施できていません。全職員に災害対策の方法を身につける必要もあります。 (外部評価) 火災等の避難訓練は年間行事に組み込まれ、消防署の指導のもと定期的に行われている。周りに民家がなく他所からの延焼等は考えられないため、事業所が火元であるとの想定で訓練が行われている。2階からの利用者の誘導は何回行っても時間を要し、火災は出さないを教訓に、訓練の度に思いを新たにしている。隣接している母体病院も60床もの入院設備があり、災害対策は法人共々余念がない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬し、自尊心を傷つけない声かけを行っています。 (外部評価) 利用者への声掛けは、職員のキャラクター（年齢、性別等）により多少の違いはあるが、優しさが感じられる。利用者も大切にされていることに安心感があるのか、語り口が穏やかである。「安心できる生活を提供したいので、今は男性の利用者はお断りしているんです」と、事業所では利用者に気を使わせていた過去を反省している。弱い人を守りたいとの考えで事業所を運営している事が良く分かる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) こちらから指示するのではなく、利用者のかたの意思を尊重し、自己決定を行えるような声かけを行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意識しているが、本人の希望にそった生活にはまだまだ十分とはいえないかもしれません。だが、一人一人のペースは大切に守れていると思います。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の方と服を選んで更衣しています。その日に着用している服について、「似合ってますね」など声をかけをし、おしゃれに気を向けて頂くようにしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事をすることを楽しみになるよう、何が食べたいのか希望を取り入れています。食器洗いや、野菜の皮むきなど、できることを手伝って頂いてます。 (外部評価) 職員は「主婦感覚の献立なんです」と謙遜するが、一汁三菜の満足の昼食である。利用者に美味しいと言ってもらいたい一心から暖かいものは暖かい内にと、作り立てにこだわっている。特別な事はないがほっとできる食事であった。食事の準備や後片付けができる利用者が少なくなっている現状はあるが、「ごちそうさん、美味しかった」と職員に声を掛けている利用者は、皆と一緒に満足した食事をとれたことに感謝している様子が伺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や栄養バランスは生活記録表や献立表に記入している為、確認でき、栄養バランスや食べる量を把握できています。個人に合わせ食べやすく刻んだりしています。水分摂取も摂取できるよう声をかけを行ったり、起床時、おやつ、入浴後に飲んでもい少しでも多く摂取できるよう工夫しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは習慣になっています。きれいに自分でできない方は介助にて行い、清潔に保てています。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) みなさんトイレで排泄しています。個人によって1日の排泄パターンや行動を把握し、声かけし誘導を行っています。 (外部評価) 利用者のほとんどは、昼間だけでなく夜間もトイレで排泄をしている。これは職員や他の利用者に気兼ねすることなく、トイレ誘導を依頼できる安心感があるからだろう。トイレで排泄した方が気持ちがいいという利用者の本音を、事業所がよく理解している証拠である。利用者の状態を見てポータブルやパッド等を使う場合もあるが、利用者に気を使わせない排泄支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日牛乳を飲んでもらったり、1日2回のリハビリ体操を行い便秘にならないよう努めています。食事では、ヨーグルトをデザートで提供したり、食物繊維のある食材を使用しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴が気持ちよく、楽しい時間となるようゆったりとした気持ちで入って頂けるよう支援しています。入浴拒否の方には時間に関係なく気分がいい時に入って頂けるように支援しています。入浴状況について職員間で情報交換を行っています。 (外部評価) 市販されている中では一番広いサイズの家庭用の大きさのユニットバスであるが、仲の良い利用者は2名で入ることもあったりすることもありゆったりとした浴室である。利用者全員が女性なので、気を使わず安心して入浴することができる。また、入浴時間は午後から自由に入ってもらっているが、入浴を嫌がる人には気が向いた時に入れるように優先される場合もある。「あ～さっぱりした」と気持ちよさそうに出てきた利用者の笑顔から意向にそう支援が行われている証が見受けられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人個人に合わせて就寝時間が違います。安心して眠れるよう、職員が寄り添い、居室にお菓子やお茶を持って行くなどしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人個人どんな薬を服薬しているのか把握しています。臨時で処方された薬については、症状の変化を観察し、病院に指示を仰ぎ薬を処方してもらっています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人個人の役割として、洗濯物たたみ、干し、テーブル拭きやお盆並べお菓子作りなどしてもらっています。歌の好きな方はCDに合わせて唄われています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節によって外出しています。その他に服やおやつを買いに行きたい利用者の方の希望を聞き、お買い物に行っています。	
			(外部評価) 利用者一緒の外出は、職員のシフトと車や昼食の手配等で季節毎にはなるが、外気浴の重要性を知っている管理者は、庭先にはなるべく出るようにしていると言う。そのまま近くに散歩することもあるが、職員の業務の都合でどうしても事業所内だけでは支援が難しい場合は、家族等にもお願いもしている。管理者は、利用者の外出の手段がないかと日々頭を悩ましている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣い程度のお金を所持しています。外出時にお菓子を買ったり、毎月パン屋が来てくれるので好みのパンを買われています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話をかけることができます。自分でできない方は代行してかけています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた壁画作りをレクレーションで行っています。季節を感じてもらえるよう、外の畑には夏野菜を植えています。居室には夏の暑い光が入るので、よしずを掛けています。	
			(外部評価) 共用空間は、リビングとダイニングを分けしても余裕がある広さで、2ユニットが合同でレクレーションを楽しむことができる。天井近くからの大きな窓が南側と北側にあり、風が気持ちよく抜けている。居室への廊下と直接繋がっているため、避難経路にもなる廊下の突きあたり窓からの景色も楽しめる。天井が高く事務室とは室内窓で視界が抜けているため、広がりのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人で過ごしたいときは居室で過ごされています。だいたい皆さんリビングで過ごされます。皆さん好き好きにゆったり過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで生活で使用していた服やお茶碗、お箸など持って来てもらっています。お部屋には仏さんを置いている方もいます。	
			(外部評価) 各居室には備え付けのベッドとクローゼットがあり、布団と着替えがあれば生活は可能だが、利用者はそれぞれ思い入れがある物を配置し個性的な部屋になっている。ベッドの位置は利用者の身体特性に合わせ、事業所の配慮で部屋毎に違っている。利用者は起きている間リビングに出ていることが多く、事業所全体がその人の居室であるかの如くである。どこも自分の場所として居心地がよいのであろう。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 室内はすべてバリアフリーになっています。部屋がわからない方のためにネームプレートのほか、目印になるようなお花など飾っています。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871300152
法人名	医療法人 慶尚会
事業所名	グループホーム テレサ
所在地	四国中央市土居町蕪崎167
自己評価作成日	平成27年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いのある生活 これを理念に利用者さんと職員が毎日一緒に喜び合い一緒に楽しみ合い 毎日が穏やかに過ごせる生活を支援していきます。健康に過ごして頂くために、リハビリ体操も毎日、午前と午後の2回行っています。毎日の食事作りも、できる事は手伝ってもらいながら、季節の行事やお誕生日会も行事として取り入れ、普段の食事作りも季節の食材を使い、「あー美味しかった!!」の言葉に励まされながら、楽しい食事作りを行っています。地域の行事にも参加出来るよう、地域の方から情報を頂き、参加しています。家族様との連携も行い支えていっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体は大型の入院設備を持っている地域連携型病院である。歯科まで整えられており、高齢者を安心して任せられる病院として住民には信頼が厚い。事業所も開設12年目を迎え、利用者がほとんど地域住民であることなど、地域の身近な福祉拠点としてしっかりと定着している。利用者はみんなで楽しく童謡等を元気よく歌ったり、リハビリ体操を行ったりと明るく生き生き過ごしている。また、食事は季節の食材を使い、できることは利用者にも手伝ってもらい和やかな雰囲気です。食事作りができており、利用者の楽しみな一時となっている。事業所恒例の催しとして、そうめん流しやいもたき会など家族も含めみんなで楽しめる行事等が実施され、利用者と一緒に楽しく過ごせるよう「笑顔」を基本に日々ケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム テレサ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏 名 津島 夕香

評価完了日 27 年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) テレサの理念「笑」の認識が職員によって認識している職員と認識できていない職員がいます。もう1度、理念について話し合い、認識し笑顔で過ごすことができるよう心がけていきたいです。 (外部評価) 理念は「利用者が自分の親だったらここでどんな暮らしをしてほしいか」という問いかけから作られたもので、文言の中に深い思いが感じられる。「笑いのある生活」にしても、安心して笑うのか、楽しくて笑うのか、それとも周りにつられて笑うのか、笑うという結果だけを見るのではなく、何故笑えるのかを考える介護を理念は示している。プロセスを大切にすることを心掛けているという管理者の言葉を納得する理念である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議には、地域の方の参加はあるが、地域の会合の参加はできていません。地域の清掃活動については今まで管理者のみで行っていました。他の職員にも協力してもらい職員も地域との交流を深めていく必要があります。また、ボランティアで地域の保育園児とのふれあいが今年初めて行えました。 (外部評価) 田畑に囲まれた事業所は、隣接している家がある訳ではなく、道路からも奥まった所に建っているため、醤油を借りに行くような付き合いも難しい立地条件である。そのため管理者は地域行事や役割を積極的に担い、催し物がある際には利用者の状態が許す範囲で出かけている。ただ、病院の地域貢献には歴史があるため、近隣者からは病院と事業所は同一施設という認識があることは否めない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症の方の理解などは話し合ってきたが、地域の方には理解してもらえぬ機会が設けられていませんでした。認知症キャラバンメイトの職員の協力を得て、地域の方に認知症の理解や支援方法を認知症サポーター養成講座実施で取り組んでいきたいです。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。だが、職員の参加は数回ほどしかありません。会議内容が職員に報告できていないため、理解できていません。 (外部評価) 運営推進会議の議事録は、フォーマットを統一して見やすく整理されている。管理者が会議を毎回丁寧に運営していることが窺える。ただ議事録からは会議を開催すること自体が目的になっているように思える。運営推進会議の目的にはサービスの質向上があり、そのサービス提供の主役は利用者である。そのための会議であるから、利用者主体の議題をもっと多くする事が求められる。	運営推進会議の中で、消防署職員が利用者を知る時間を取ることを考えてほしい。有事の際は、消防職員が利用者自身を知っていることや生活の場を見ていることで、避難活動がスムーズに運ぶことが期待できる。また、会議参加者に利用者に提供している食事を試食してもらうことも有用である。第三者からは意外な意見が出るものであり、職員にも緊張感が生まれ、業務の遣り甲斐になると思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所の高齢介護課の方が運営推進会議に参加して頂き、意見や指導をしてもらっています。 (外部評価) 市担当者とは運営推進会議とグループホーム連絡会での話し合いが中心である。地域包括支援センターとも同様で、会議等の定例会で連絡を取っている。元々事業所がある市は4つの市町村が合併しているため、それぞれの地域性が未だに色濃く残っている。そのため全体の会議では細やかな連携が取り難い現状があるように感じる。地域特性を活かした連携も模索する必要がある。	近隣地の同業者となると数が少ないが、高齢者の福祉関連事業者と範囲を広げると興味深い集まりになると思われる。また、地域包括支援センターの担当者を巻き込んで、地域に福祉マップを作製する等の活動も期待したい。事業所は開設後12年目の先輩格でもあることから、地域の先導役を担ってほしい。この活動で市ともより具体的な連携が構築されると思われる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアを目標にしているが、帰宅願望があり、家族の方からの希望で玄関は現在施錠しています。今後、施錠しなくてもいいようにしていきたいと思っています。 (外部評価) 身体拘束の対象となる具体的な行為は、研修会に参加したり、事業所内のミーティングで時間を取ったりして正しく理解している。特に言葉による拘束には気を配っており、職員は、まずは話を聞くことを心掛けている。ただ先日不穏な状態が続いた利用者が近隣を徘徊したことがあり、それ以降、家族からの強い要望があり玄関に鍵を掛けている。現在はその対応に苦慮している。	利用者の徘徊で事故に会わなかったことは幸いである。家族の要望で鍵を掛けている状態は、しばらくは仕方がないかもしれないが、施錠は拘束にあたりその事は管理者も十分に承知している。利用者の不穏要因を軽減する、職員による見守り体制を見直し、家族等と話し合いを深める等を継続し、施錠しなくても良い状態へ、1日も早く復帰できる事が望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員の自分本位な言葉かけや不注意でできた傷などもう一度再認識する必要があります。虐待について研修参加の機会を持つことが必要です。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会に参加する必要があります。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用開始時に家族の方と契約書、重要説明書について説明しています。不明なところは、その都度説明しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族訪問時に近況を説明したり、家族の方からの意見を聞いています。要望などは職員に知らせ、要望を取り入れるようにしています。 (外部評価) 管理者は、「分からないことは利用者や家族等に直接聞いています」と謙虚に話している。分からないことを知ったかぶりをせずに、素直に分からないと言えることは対人サービス者には特に求められ、逆に管理者の専門性の高さが感じられる。利用者や家族等が意見を言い易い雰囲気を醸し出せるのは、管理者の性格によるものもあるが、より良いサービスを提供したいという思いが、利用者等の話しを傾聴する姿勢につながっているのだと思う。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個人個人、意見がある職員は管理者に報告しているが、全体で話し合う機会が設けられていないので、話し合う機会を作っていきたいです。 (外部評価) 管理者は介護業務のキャリアは十数年あるが、年齢的には年上の職員が比較的多く、職員との話し合いは同じ介護スタッフとしての意見交換が多い。管理者は人の話を聞くという気持ちが強いことから、職員の意見や提案を聞いた上で、それを利用者のケアの質向上に活かしている。事業所内には、「一緒に事業所を運営している」と言う雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の給料に関しては母体の病院が管理しているので、把握できていません。職員の意見を大切にし、意見を聞き入れて働きやすい職場にしていきたいです。職員、全員が同じ方向で目標を持ち、向上できるようにしていきたいです。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人職員の研修が必要で、まだ、行けていないので、これから行けるようにしていきたいです。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 去年は相互研修に参加できなかったもので、今年はできるようにし、サービス向上できるように努めていきたいです。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時、入所後に今までの生活歴、趣味など、本人や家族の方から、情報収集を行い職員に情報を共有しています。信頼関係が築けるよう、安心できる声かけを行ったりしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、不安なこと、困っていること、家族の方の気持ちを聞くようにしています。利用後も機会があるたびに要望等、聞く時間を設けて関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時、本人のできること、できないことを見極めたり、環境の変化で不安や混乱が起きないために、利用者の方に寄り添い、落ち着いた生活が出来るように努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の様子観察を行い、本人の思いを知ることに努め、生活の中でお互いがありがとうと言える関係作りを築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 急変や何かあるとすぐに連絡をするようにしています。面会時にはお茶を出し、少しでも一緒に過ごす時間が持てるようにしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きなれた美容院に家族の方と行かれたりしています。 (外部評価) 利用者の多くは事業所の近隣に居住していた人であり、普段の外出でも馴染みの場所に出向くことができる。利用者同士の雑談の中にも昔の友人の名前が良く出てくると言う。利用者が忘れないように職員が話を振っているものと思われる。「ほんで〇〇さんはどこに住んでいたんだっけ」と、利用者の近所の人の名前を出している職員の姿は自然であり、普段通りの支援であることが実感できる。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の方の性格を理解し、日常生活において職員の介入により、利用者同士のふれあいや会話に結びつけ、楽しく過ごせるよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 母体の病院に入院された方は、病院訪問時に様子を伺ったり、声かけを行ったり、家族の方とお話したりしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に利用者の方の気持ちを大切にし、本人の意向を尊重し、その人らしく生活できるよう検討しています。	
			(外部評価) 利用者の個人ノートが有用に使われており、職員はその人像がより深く理解できている。事業所の積み重ねと言えよう。利用者は全員女性で、利用者の対応も女性職員とのあうんの呼吸があるのか、男性職員の話しを「ハイハイ」と聞いている利用者は、私の事はあの人（女性職員）が理解しているとでも言いたそうであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に家族の方から聞いたり、利用者の方に寄り添い、昔のこと、生活環境、興味あることを聞き、把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの中で把握に努めています。出勤時一人一人の心身の状態のチェックを行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成前に、本人、家族の意見、希望を確認しています。介護計画は職員全員からケアに必要な情報を聞き作成しています。 (外部評価) 事業所では、利用者毎の担当者は決めず、職員全員で全部の利用者を見るという体制である。利用者全員が女性であるための体制なので、男性職員を補うためには全員で見た方がよいとの判断である。介護計画は計画作成担当者が立て、カンファレンスで検討されている。管理者が全体を統括しており、そのシステムにはキャリアが感じられる。	職員の専門性を上げるために利用者の介護計画に責任を持たせても良い時期と思われる。全員で全員を見るシステムの良さもあるが、職員の専門性を上げるには各々が責任を持つことも必要である。また、責任を持つことで、利用者をより観察し、モニタリングも自分で確認したいとなるようだ。休みの日には他の職員にモニタリングを依頼することになり、ポイントを絞った引き継ぎが期待できる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録、業務記録の記入で職員間で情報の共有ができています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々に応じ、一人一人のニーズに柔軟に対応できています。歩行目的のため、散歩外出、足のむくみ対策のため、足浴など行っています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方、近隣の園児との交流を行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	(自己評価) 受診は本人、家族の希望を大切にしています。母体が病 院なので定期的なお薬の対応や急変時の対応をしても らっています。専門の病院については家族の方に協力を 頂き、今まで通りに受診に行ってもらっています。	
			(外部評価) 母体病院が地域連携型病院のため、多くの利用者は元か ら母体病院がかかりつけ医であった。事業所と隣接し診 察科目も多いことから、かかりつけ医を母体病院に変更 する利用者もいる。他の医療機関とも連絡がスムーズ で、専門科で他院を受診している際にも、病院同士の連 絡で専門的な情報に漏れがなく、医療面では安心感が高 い事業所である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) いつもと違うと感じたら、外来受診を行い、報告、相談 し指示をもらっています。正確に報告できるよう心がけ ています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。または、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体が病院なので医療機関との協働ができています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共にチ ームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早期発見に努めるようにしています。利用者の方の状 態を家族の方に報告、相談を行い、家族の方の意向や利 用者の方の状態により、柔軟に対応しています。	
			(外部評価) 利用者に医療的ケアが多くなると母体病院に入院するこ とが多かったが、昨年、利用者と家族の希望で事業所で 看取ることを経験している。医療的ケアが必要ないケ ースだったことと、ここで最期を迎えたいと言うたつて の希望が出されたためであるが、希望にそうケアが提供 できたと思われる。条件にもよるが、今後も看取りがで きるように支援を行いたいと管理者は考えており、母体 病院の協力も得られているので、期待したい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 敷地内に病院があるので、すぐに病院に連絡し、受診を行っています。だが、急変時の対応の勉強会などに積極的に参加し、身につける必要があります。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 前回の外部評価で避難体験や夜間訓練など指導して頂いたが、まだ、実施できていません。運営推進会議を利用して災害対策について話し合いは行っているが、もっと具体的な話し合いが必要に思われます。また、職員も災害対策について身につける必要があります。 (外部評価) 火災等の避難訓練は年間行事に組み込まれ、消防署の指導のもと定期的に行われている。周りに民家がなく他所からの延焼等は考えられないため、事業所が火元であるとの想定で訓練が行われている。2階からの利用者の誘導は何回行っても時間を要し、火災は出さないを教訓に、訓練の度に思いを新たにしている。隣接している母体病院も60床もの入院設備があり、災害対策は法人共々余念がない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、声かけなどに気をつけるように心がけています。もっと認知症について勉強していき今よりもよくなるように心がけたいです。 (外部評価) 利用者への声掛けは、職員のキャラクター（年齢、性別等）により多少の違いはあるが、優しさが感じられる。利用者も大切にされていることに安心感があるのか、語り口が穏やかである。「安心できる生活を提供したいので、今は男性の利用者はお断りしているんです」と、事業所では利用者には気を使わせていた過去を反省している。弱い人を守りたいとの考えで事業所を運営している事が良く分かる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で常に声かけし、自己決定出来るように働きかけています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の暮らしの過ごし方は、ほとんど利用者の方のペースで過ごせています。外出時は心身の状態、体調等で支援しています。また、職員の業務を優先にならないよう、ゆとりを持った対応に努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアを始め、整容にも心がけています。また、散髪は2ヶ月に1回来てもらい、散髪を行っています。家族の支援により、馴染みの店にも行かれている方もいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に検食を行うことで、食べにくいもの、何を残しているのか？把握するようにしています。個々の食べたいものをアンケートして支援できるようにしています。彩り、見た目、臭いを大切にして美味しく食べて頂いています。ホットケーキ作りなど利用者と共に楽しくできています。 (外部評価) 職員は「主婦感覚の献立なんです」と謙遜するが、一汁三菜の満足の昼食である。利用者に美味しいと言ってもらいたい一心から暖かいものは暖かい内にと、作り立てにこだわっている。特別な事はないがほっとできる食事であった。食事の準備や後片付けができる利用者が少なくなっている現状はあるが、「ごちそうさん、美味しかった」と職員に声を掛けている利用者は、皆と一緒に満足した食事をとれたことに感謝している様子が伺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量を水分量記録表で把握できています。水分摂取の少ない方の支援の仕方を職員同士の情報連絡で対応しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後実施しています。個々の状態により、介助方法を柔軟に対応しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表により、個人の排泄パターンを把握してトイレで気持ちよく排泄できるよう支援しています。 (外部評価) 利用者のほとんどは、昼間だけでなく夜間もトイレで排泄をしている。これは職員や他の利用者に気兼ねすることなく、トイレ誘導を依頼できる安心感があるからだろう。トイレで排泄した方が気持ちがいいという利用者の本音を、事業所がよく理解している証拠である。利用者の状態を見てポータブルやパッド等を使う場合もあるが、利用者に気を使わせない排泄支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表により、便秘薬の服用、牛乳等の飲用も行っています。水分量、食事の内容、運動等の取り組みも考慮した支援をしています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) バイタルチェック、個々のその日の状態により、入浴の支援を行っています。入浴拒否の強い方に対しては信頼関係作り、拒否する気持ちを理解、把握し気持ちよかったという記憶につなげられるよう支援しています。また、職員間で情報を共有しながら取り組んでいます。 (外部評価) 市販されている中では一番広いサイズの家庭用の大きさのユニットバスであるが、仲の良い利用者は2名で入ることもあったりすることもありゆったりとした浴室である。利用者全員が女性なので、気を使わず安心して入浴することができる。また、入浴時間は午後から自由に入ってもらっているが、入浴を嫌がる人には気が向いた時に入れるように優先される場合もある。「あ～さっぱりした」と気持ちよさそうに出てきた利用者の笑顔から意向にそう支援が行われている証が見受けられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を確認して昼食後は居室で休んで疲れをとってもらったり、安心して無理のない生活が送れるように支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の方への声かけや日常動作、体操時の身体状態を見極め、薬の処方依頼時は病院と相談しています。薬の目的、副作用についてお薬情報で全職員が確認しています。薬の支援方法等、職員間で情報を共有しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の特技、楽しみ等を把握し、余暇活動に活かしています。食器洗い、モップかけ、洗濯物干し、たたみ等の役割をしてもらっています。また、月1～2回のボランティア訪問を行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望で戸外、外出できるように支援しています。また、季節を感じてもらうためにも、四季折々の花を見に出かけたり、外気浴も行っています。	
			(外部評価) 利用者一緒の外出は、職員のシフトと車や昼食の手配等で季節毎にはなるが、外気浴の重要性を知っている管理者は、庭先にはなるべく出るようにしていると言う。そのまま近くに散歩することもあるが、職員の業務の都合でどうしても事業所内だけでは支援が難しい場合は、家族等にもお願いもしている。管理者は、利用者の外出の手段がないかと日々頭を悩ましている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができる利用者の方は職員と買い物に出かけています。自分の好きなものを購入する。支払をする事により、満足できるよう支援に取り組んでいきたいです。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて電話をされています。遠方に家族の方がいる方は、機会のある度に近況報告並びに本人と会話する支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 水周りに関しては、不潔のないよう清潔に保つようになっています。フロアは日差しに合わせてブラインドで調節しています。エアコン使用にて快適に過ごせるようになっています。壁画は季節感のある飾りつけを利用者の方と作っています。 (外部評価) 共用空間は、リビングとダイニングを分けしても余裕がある広さで、2ユニットが合同でレクリエーションを楽しむことができる。天井近くからの大きな窓が南側と北側にあり、風が気持ちよく抜けている。居室への廊下と直接繋がっているため、避難経路にもなる廊下の突きあたり窓からの景色も楽しめる。天井が高く事務室とは室内窓で視界が抜けているため、広がりのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 本人の希望する場所（食堂、リビング、南廊下ソファ）で気の合う利用者同士で快適な居場所を見つけ過させています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に仏壇を置いたり、家族との写真を飾ったり、個々で工夫しています。居室前に本人の写真を飾ることで居室の確認が出来ています。本人の必要なもの、使い勝手のいいように生活しやすくしています。 (外部評価) 各居室には備え付けのベッドとクローゼットがあり、布団と着替えがあれば生活は可能だが、利用者はそれぞれ思い入れがある物を配置し個性的な部屋になっている。ベッドの位置は利用者の身体特性に合わせ、事業所の配慮で部屋毎に違っている。利用者は起きている間リビングに出ていることが多く、事業所全体がその人の居室であるかの如くである。どこも自分の場所として居心地がいいのであろう。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 室内はバリアフリーになっています。車イスを自走したり、シルバーカーを使用して自由にどこでも行くことができます。廊下からトイレまで矢印をつけトイレが分かりやすいように工夫しています。	